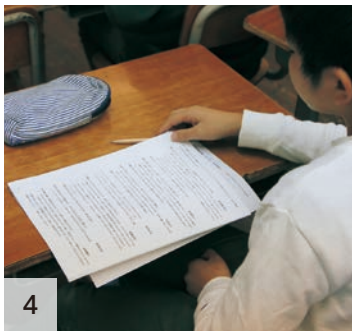
短歌づくりで心を磨く――
3回目の開催となった金山小歌会始



▼１体言止めとなっている結句が余韻深い柿崎ひまりさんの歌。６年生人気投票№１となった。▼２－４新庄瀧山短歌会による事前学習の様子。児童の詠んだ作品を講師が丁寧に解説。児童も真剣そのもの。

「山あひの紅葉深まる学び舎に本読み聞かす声はさやけし」。皇太子殿下は、平成27年宮中歌会始の儀において、その前年に訪れた金山小学校の印象を歌に詠まれました。その名誉を記念し、新たな伝統を築いていこうと３回目の開催となった「金山小歌会始」。１月12日、会場の金山小学校では、５・６年生を代表して優秀作品に選出された14名（右記のとおり）が、工夫を凝らした歌を発表しました。

今年も流行語や時事問題をテーマにした、小学生らしい豊かな表現の作品が勢ぞろい。５・６年生76名は、授業で短歌について学習を深めてから、自分なりの歌を詠みました。審査した新庄瀧山短歌会の山田さんは、優秀作品をひとつひとつ丁寧に選評しながら「良い作品が多く、選定には苦労した。年々レベルが上がっている」と児童たちの成長を喜びました。「短歌はことば。自分の意思や思いを伝える手段だ。短歌を通して心が磨かれる」山田さんはこう続け、短歌づくりの素晴らしさを語っていました。

言葉を磨くことは心を磨くこと――。短歌づくりを通して、金山の子ども達は言葉や心を磨き、着実に成長しています。子ども達を育む場となるこの伝統が、末永く続くことを願ってやみません。

▼５年生

金山の祭りは夜がもりあがる　出店ははんじょうさいふは空に　伊藤遥都

寒い朝「もう起きなさい」の母の声　「もうちょっとだけ」と布団に潜る　川崎真子

教室の黒板見ると落書きが　今日はなんだか切ない気持ち　笹原乃亜

秋になり山の木の葉が色づいて　赤や黄色のきれいな景色　樋渡一葉

コオロギはないて「リリリ」と音を出し　友をよんでる秋の音楽　樋渡蓮

星空を見上げたら雲大きくて　空一面が雲の海だよ　柳田隆之介

▼６年生

流行語に加藤「ひふみん」ノミネート　人気が上がり今年の話題に　加藤類

六年生のいつもうるさい教室が　なぜか落ちつく私の居場所　柿崎ひまり

人類の進歩は速いすごいよね　話題を呼んだアイフォンテンが　佐藤友彦

ミサイルが日本の上空飛んで行く　「やめて」の声は聞こえはしない　髙橋勘九郎

もみじの葉夕日の色に染まりゆき　秋は深まる金山の里　丹志穂美

白黒の鍵盤の上のフロアで　指と音符のダンスパーティー　原田奈歩

六年間思い出つまった日常が　私の中の大事な宝　正野葉菜

お母さんへ十二年分のありがとうを　はずかしいけど伝えて卒業　正野瑞稀